

1. 開催日時

平成29年6月19日(月) 14:00~16:40

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・浅野幸弘 委員長 ・明田雅昭 委員 ・菅原晴樹 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

- ・平成28年度運用結果及び運用評価について
- ・政策アセットミックスの検証について
- ・運用受託機関等の選定方針について 等

5. 概要

平成28年度の運用結果及びその評価について事務局から説明し、報告のとおり了承された。

被保険者ポートフォリオの政策アセットミックスについては、直近の経済動向に基づき検証を行ったところ、検証の前提となる各種金融変数の考え方や計算手法について質疑があり、検証方法等について引き続き検討すべき点はあるが、現行アセットミックス設定時の制約条件の下では、引き続き効率性が維持されていると認められることから、緊急に見直す必要はないとされた。

運用受託機関等の選定方針について事務局から説明し、了承された。

次期政策アセットミックスの策定に向けた検討課題について事務局から説明し、委員から意見を伺った。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- 平成28年度の運用について、全体的にトラッキング・エラーが小さく、また、トラッキング・エラーが発生している部分についても理由がはっきりしており、やむを得ないものだと考えられることから、着実かつ適切に運用されていると評価する。
- 次期政策アセットミックスの策定にあたっては、
  - ・ 経済見通しのシナリオを一本に限定せず、シナリオに多様性を持たせることを検討してはどうか。
  - ・ 従来の平均分散法によるアロケーションの導出だけでなく、例えば外国債券についてインプライドリターンからアプローチするといった工夫をしてはどうか。ヘッジ外国債券の導入や、制約条件の置き方についても、引き続き検討が必要である。
  - ・ 自家運用については、期待収益率の計算の仕方や、アセットミックス策定時の扱い方について、引き続き検討が必要である。
- 運用受託機関と資産管理受託機関については、パッシブ運用を前提とすると、機関ごとの運用能力に大きな差があるとは思えないため、運用受託機関を複数社にしたり、運用受託機関と資産管理受託機関を分離して選定することにはメリットが感じられない。
- 運用受託機関等の選定にあたっては、事務ミス、運用ミスが回避されるよう選定基準の中で工夫をすべきである。
- レンディングは、現状のように信託報酬率が低廉な中ではかなり有効ではないか。リスクも想定されないため、積極的に検討すると良い。

以上